

都城市議会議長 様

令和元年10月25日

## 議会運営委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

### 1. 委員会名及び視察報告者

#### ○ 議会運営委員会

委員長 : 大浦 さとる

副委員長 : 中田 悟

委員 : 徳留 八郎・黒木 優一・永田 浩一・川内 賢幸  
上坂 月夫・広瀬 功三・別府 英樹

### 2. 視察先・テーマ及び日時

○ 令和元年10月16日(水) 13時30分~15時00分

宮崎県 延岡市

議会運営上の先進的取り組み等について

対応	延岡市議会	副議長	松田 満男	様
	延岡市議会	議会運営委員長	下田 英樹	様
	議会事務局	次長	川瀬 茂樹	様
	議会事務局	議事係長	須藤 克彦	様

### 3. 視察の内容

- ① 議会運営の概要について
- ② 議会改革の取り組みについて
- ③ 議会活性化への取り組み
- ④ 代表質問制について
- ⑤ 政策提言議員協議会について
- ⑥ 自由討議(議員間討議)について
- ⑦ 議会活動報告会・シティミーティングについて
- ⑧ 政務活動費について

延岡市役所7階市議会会議室において、それぞれについて説明を受けた。

### 4. 委員感想等(別紙添付)

## 1. 視察の感想等

### ・議会運営の概要

6月・12月定例会の会期日程は18日間で、9月は35日間、3月は23日間と設定されており、総括質疑と一般質問形式と一般質問は3日間。

当初予算、補正予算は全議員（議長除く）予算審査特別委員会と各常任委員会（分科会）で審査、特別委員会設置は参考になる。

### ・議会改革・活性化の取組み

議会活性化特別委員会設置（平成11年度～12年度）、  
議会基本条例制定特別委員会設置（平成23年度～24年度）、  
議会のあり方検討特別委員会設置（平成25年度～26年度）、  
議会のあり方検討特別委員会設置（平成27年度～30年度）、  
議会活性化特別委員会設置（令和元年度～）と設置され様々な協議がされている年度ごとの特別委員会設置は、活性化に繋がっており、参考としたい。

### ・代表質問制

3月議会においてのみ実施されている。政策集団である会派による質問を行うことにより、市当局との政策論議をより深め、会派内において政策に関する論議を活発に行うことで、議員の政策形成の能力を向上させることを目的としている。

現行は会派ごと50分で、同じ会派からの関連質問1人で10分以内とし全てで50分とされている。3月の個人質問は代表質問終了後、3日間の範囲内で、質問時間は1人25分以内。全ての会派の時間が同じなのはどうか、また個人質問の時間も短い、関連質問も出来る所は良い。

### ・政策提言議員協議会

正副議長、会派代表者による政策意見交換会（平成17年度～19年度）年3回政策提言議員協議会の設立（平成20年度）政策提言議員協議会の運営等の一部見直し（平成23年度）となっており、市長、副市長も出席での意見交換会で、会派の幹事長を追加し平成29年度は全体会5回、幹事会12回実施、任期中の3年間分を提言にまとめ2項目を市議会として11月に市長へ提出。

### ・自由討議（議員間討議）

当面は委員会のみで実施。委員会において審査する議案については賛否が分かると予想される等、議員間でより認識を深める必要があるもの、請願・陳情については全て討議を実施している。ただし、重要案件や委員の意見が分かれそうな案件について実施。議員間討議時は、委員から忌憚のない意見を述べてもらうため当局職員は退室している。面倒でも様々な意見が言えるようにする為とのこと。徹底しているのは、参考になる。

#### ・議会活動報告会

議会が市民への説明責任を十分に果たすために、毎年1回以上定期的に開催。市内440の区（自治会）地域ごとに11の地区構成、2年間で全ての地区を回る。各地区公民館やコミュニティーセンターで開催。各班に分かれて、準備は広報・広聴検討会議が中心となる。周知方法は案内ビラを広報紙の発送に合わせて各区内で組織回覧し、平成27年度からは若年層（大学・高校）との意見交換会をしている。若年層（大学・高校）との意見交換会は必要だと思える。

#### ・シティミーティング

各常任委員会の所管する事務の関係団体の現状や課題等の意見交換を実施。平成21年から実施しているが、毎年実施されているのは、福祉教育の関係団体が実施されている。必要なことではあるが参加対象が偏っており、議会報告会としての実施で良いのではないかと思える。

#### ・政務活動費

議会の審議能力の強化、議員の調査活動基盤の充実、市の財政状況など多角的な観点から、慎重に論議を重ねた結果、政務活動費の支給は行われていない。会派の視察等の経費（旅費）年間1人当たり上限150,000円の予算計上。

メリットとして、議員の事務負担軽減（報告書等の作成）事務局職員の事務負担軽減（報告書等の確認）デメリットとして、研修参加費用や視察等が自費となるため、参加しづらい。全国市議会議長会フォーラムの代替研修については、全議員が任期中に1回は参加できるように振り分け、一般会計予算で対応。県内の議長会、市長会主催の研修も参加できるよう予算計上しているようである。政務活動費を支給されてないのであれば、議会の審議能力の強化、議員の調査活動基盤の充実を図るためには、もっと予算を増やすべきではないかと思える。

## 2. 視察の成果及び議会への反映など

### ・議会運営の概要

当初予算、補正予算は全議員（議長除く）予算審査特別委員会と各常任委員会（分科会）で審査、特別委員会設置をしても良いのではないかと。

### ・議会改革・活性化の取組み

都城市においても、特別委員会設置をすべきではないかと。

### ・代表質問制

3月議会においてのみ実施し、政策集団である会派による質問を行うことにより、市当局との政策論議をより深め、会派内において政策に関する論議を活発に行うことで、議員の政策形成の能力を向上させることを目的としている。

都城市においては、会派ごとの時間を定め、また会派の人数による時間を決め、政策集団である会派なので、同じ会派からの関連質問1人出来る方法も良いのではないかと。今後検討すべきである。

### ・政策提言議員協議会

政策提言議員協議会の設立もあり得るのではないかと。正副議長、会派代表者、会派の幹事長を含め、市長・副市長も出席での意見交換会も必要である。現在、各常任委員会で検討し進めているが、議会として提言するのであれば、正副議長や常任委員会の正副委員長を対象として協議会の立ち上げ、政策提言議員協議会の設置することも検討すべきである。

### ・自由討議（議員間討議）

都城市でも重要案件や委員の意見が分かれそうな案件について実施しているが、議員間討議時は、委員から忌憚のない意見を述べてもらうため当局職員は退室している。面倒でも様々な意見が言えるようにする為、原点に戻るべきだ。

### ・議会活動報告会

今現在実施している、議会報告会で良いのではないかと。ただ周知方法で案内ビラを広報紙の発送に合わせて各区内で組織回覧することが必要ではないかと。また、若年層（大学・高校）との意見交換会は必要だと思える。シティミーティングとしては、各常任委員会の所管する事務の関係団体の現状や課題等の意見交換を実施。必要なことではあるが参加対象が偏っており、現状の議会報告会としての実施で良いのではないかと。思える。

### ・政務活動費

会派の視察等の経費(旅費)年間1人当たり上限150,000円の予算計上のようなのだが、メリットよりも、デメリットの方が大きいのではないかと。無くすのであれば、充分検討し、議会の審議能力の強化、議員の調査活動基盤の充実を図るためには、もっと予算を増やすべきではないかと思う。

# 議会運営委員会行政視察報告書

委員名 中田 悟

視察先 延岡市議会

視察項目 議会運営上の先進的取り組みについて

## 1 視察の感想

延岡市議会における調査として議会運営の概要、議会改革の取り組み、議会活性化の取り組み、代表質問制、政策提言議員協議会、自由討議、議会活動報告会・シティミーティング、政務活動費の8項目について行った。

代表質問制については、議長からの諮問を受けて現在議会運営委員会で調査研究している。延岡市議会においては以前より代表質問制を導入しており、運用方法などについて説明を受けた。

運用方法や持ち時間については導入当初のものを見直しながら現在の制度になっている。平成19年に一般質問でも1問1答方式が導入された。この際、代表質問の取り扱いについて議論となった。とのことだった。

当初は会派の議員数により時間配分を決めていたが、各会派とも持ち時間は平等で良いのではないかと、との議論があり現在は各会派100分の持ち時間となっている。但し、今回の調査時にはまた会派の議員数を考慮した時間配分にしてはどうか、との見直しの議論が始まっているとの事だった。

調査項目の中で延岡市議会が取り組んでいる政策提言議員協議会の運用方法が先進的だと思った。導入前は各政党や会派単位で市長に対する政策提言が行われていた。議会の総意としての政策提言を行うためにこの制度の導入に至ったとのことだった。平成20年の導入当初は現議会の任期中に完了するような事業提案が主だったが現在は中・長期的な事業の提案も行われているとのことだった。政策提言実施の為の構成・スケジュールなどが参考になった。

## 2 視察の成果及び議会への反映等

代表質問制について本市議会での導入を検討している中で、延岡市議会が代表質問制を導入に至った経緯について明確なものが無かった。導入後に一般質問も1問1答方式が導入されて代表質問との棲み分けの議論があったとのことで、本市議会が1問1答で行っている一般質問の他に代表質問制をどう位置づけるかの更なる検証が必要だと思った。議会の会派の構成により代表質問制の特徴が出てくると思うが、政党の会派の議員数などの違いもあるのではないかと思う。

政策提言議員協議会については大変先進的な取り組みだと思った。現在、本市議会においても政策提言を行っているが、当局に対して議会の総意として提言するにあたり、提言する事業の内容について議会として慎重に調査研究を行う為、延岡市議会の取り組みは大変参考になると思った。

令和元年10月17日

委員名 徳島八郎

1 視察の感想

※参加委員の感想を記載。

- ① 延岡市での意見交換会時間が足りなかった。
- ② 議会運営に関しても都城市の方が良いと思った。
- ③ 政務活動費について延岡市はやはり今議選後削減の方に加算している様な状態に感じた。

2 視察の成果及び市政への反映等

※視察の成果、市政に反映するために参考になった事項などを記載。

- (A) 延岡市政策提案議員協議会とは、都府神宮に必要だ(理由)  
議員名士の地域性、職域性、個性が揃い一般市民で提案したり、常任委員会でも委員の意見を第一とめて重要事項として提案し報告(本会議中)あるいは総議上重視したりして運営上まがらわしい。
- (B) 代表質問制も、また都府神宮議会は本検査の余地なし、会議中心の代表質問制であるから、年々増しかかり本会議で限られた少ない時間での代表質問では市政のニーズ、弊害等多岐に渡りの市政反映には行き届かぬ面がかりと多く出て来ると思われる。

# 令和元年度 議会運営委員会行政視察報告書

報告者 黒木 優一

視察先 【延岡市】

調査項目 【・議会運営の概要・議会改革・議会活性化・代表質問制・政策提言議員協議会・自由討議・議員活動報告会及びシティミーティング・政務活動】について

## 1、視察の感想

政策提言議員協議会については正副議長、各会派代表で手間を出し合いある程度のところで、市長及び副市長と協議しながら提言が決定していくという流れであり、実際に事業化が進んでいるものがあり、とてもいい制度だと感じた。

代表質問制度は、2名以上の会派の代表者が意見をまとめて行うものであり、こちらも良い制度だと思う。ただ、人数の多寡による、持ち時間の差がなく不満も出始めているようで、人数の多い会派を作る努力が報われていないように思われた。

自由討議については、まだ年数が浅いようだが、うまくいっているように感じた。

## 2、視察の成果及び本市議会への反映等

政策提言議員協議会については成果が出ているようであり、本市議会でもぜひ取り組む検討を進めるべきだと思う。

代表質問についても重なり等の問題はあるかと思うが、進めるべきだと思う。

シティミーティングについては、議会基本条例制定前の制度が継続されているようだが、議会報告会の参加人数が極端に少ない本市議会にとっては参考になると思われ、検討していくべきものだと思う。

政務活動費については、本市議会の現状のままでいいと思うが、市民への説明責任を十分確保したうえで、簡略化の検討もすべきである。

## 延岡市議会視察報告

委員名 永田 浩一

日程：2019年10月16日（水）

### 1. 視察の感想

議会は、議員自体がそのルールにのっとり進んでいく。ルールはよりよい判断により早く至るために必要なものである。議員は、市民の皆様の負託を受けており、市民の皆様の声が届くように、また、質疑などにより行政の方針や総括に反映されていくように動かなくてはならない。議会が活性化するというのは、議員一人一人が元気であるということはもとより、活きたやりとりが生まれることであると認識している。市民の皆様の声を届けられるか否かに関しては、その役割において大きな責任がある。一方で議会での質疑だけが議員の役割ではない。地域の皆様に寄り添い共に悩み、より良い方向へと一歩を踏み出せるように支えることが日常の役割と考える。『市民の目線に立つ』という言葉も良くきかれるが、議員が特別であるというような間違っただけの気持ちを持った議員が、これまでに少なからずいたからではないか。それに警鐘を鳴らす言葉ではなかろうかとも捉えられる。都城市の課題は、解決できないまま継続検討せざるを得ないもの（少子高齢化など）に加え、複雑な問題が日々生まれてきている。解決・改善は早い方がよい。年に数回の議会開催で確認していく時期と兼ね合う問題と、スピードを持って対処しなければならない問題をどのように仕分け、どこがどのように権限を持ち執行できるのかまで、先を見越した判断ができる議会運営となれば良いと考えている。

### 2. 視察の成果及び議会への反映など

議会運営の概要を含め、視察することにより参考にしたりはそれを改革に活かすことができることを念頭に置いた。

- ・議会の開催は定例で6月9月12月3月。
- ・一般質問と総括質疑を行う。
- ・議会擁護の見直し→平易な言葉に改善することで、わかりやすい議会
- ・議会だより→すでに発行している。
- ・TV放映→すでに開始している。
- ・代表質問による関連質問制→協議が必要になるが、理解が進みスピードを持った解決につながるのではないかと。
- ・関連質問の運用方法と時間配分→会派に同等な時間が配分され、質問順位も抽選による決定。



## 議会運営委員会行政視察報告書（感想等）

委員名 川内 賢幸

### 1 視察の感想

延岡市議会の視察内容として、代表質問、政策提言議員協議会、自由討議、議会活動報告会・シティミーティング、政務活動費等について行った。

代表質問については今任期中に判断が迫られている調査項目である。延岡市議会では「政策集団である会派」で行い、「市当局との政策議論をより深めることや議員の政策形成能力を向上させることなどを目的」に行われていることが分かった。会派の所属議員数による質問時間の差異はなく、各会派50分の持ち時間としていた。

また、1人のみ関連質問も行うことができるようになっており、質問時間は10分と定められていた。会派ごとの代表質問であるが、質問順番はくじで決めることとしており、実際の質問内容については、ダブリはほとんどないとのことだった。当然であるが、会派、政党により政治姿勢が異なることから会派等のカラーがでるとのことだった。

政策提言議員協議会については、今任期中の常任委員会でも市長に対し政策提言を行う取組をしていることから、非常にタイムリーな内容であった。政策提言において、2年から3年で取組めるような事業提案を行うことが多かったが、最近では中長期的な政策提言も行うようにしているとのことであった。

提言した項目については、協議会において「提言項目に関する検証」を行っており、提言内容が市政に反映されているのか、取組みはされているのか提言項目ごとに検証されていた。

自由討議については、本議会の取り組みとは少し異なるようだった。内容としては委員会質疑を終え、政策への賛否を表明する意味合いが強いとのことでありイマイチ機能しているのかわからないとのことであった。

議会活動報告会・シティミーティングについて、議会報告会の手法は概ね当議会と同じ手法で行われているようだったが、当議会と同じように参加者の減少が見られるとのことだった。議会活動の一環として高校生や大学生との意見交換会を行っている点は当議会に足りない部分であり参考にしたい。

また、シティミーティングについては、当議会と同じように市民団体からの申出を受けられる形で開催されていたが、課題として要望等は聞きっぱなしになることもあるとのことだった。

政務活動費については、制度そのものを設けておらず、会派視察等の旅費のみ予算計上されており議員一人当たり年間15万計上されていた。

### 2 視察の成果及び議会への反映など

代表質問については、議員個々人の一般質問と同じような内容になることもあるとのこ

とであり、現状では差別が難しく感じた。一方で、会派の特色を示す場になることや市長答弁であることを考えれば、市民の皆様には市当局の考え、会派の考えを知っていただくことが今以上に可能となるのではと考える。しかしながら、喫緊の課題とは感じなかった。

政策提言議員協議会については、当議会よりも進んだ取組であり今後の参考にしたいと思う。当議会では、今任期中に各常任委員会で政策提言をまとめて市長に提出する流れを初めて行う。各常任委員会でまとめたものを全員協議会に諮り、最終的に議会として政策提言を行う流れになることから、政策提言協議会のようなものは必要ないかもしれないが、市当局に対し議会としてしっかりとした政策提言を行える仕組みづくりは非常に重要だと考える。

自由討議については、当議会では質疑の後に再質疑を行う目的で実施している。現在も自由討議の在り方については、苦慮する部分があり、延岡市議会での「イマイチ機能しているかわからない」「討論との違いはあまりない」といったご意見を聞くに、仕組みと中身がうまくいっていない印象も受けた。当議会でのやり方はまだ始まったばかりなので、今後の審査を通じてよりよい方法を考えるべきだと思う。

議会報告会・シティミーティングについては、当議会でも行っているが年々減少傾向にあり、本年度はワークショップ形式を取り入れた所である。この方法が正しいかどうかは今後検証する必要性はあるが、参加された市民の方々と意見交換できる場としては有意義に感じている。当議会では常任委員会でもある広報広聴委員会の所管するところであり、地域的な特色もあることから、そちらの取り組みに期待したい。

政務活動費については、全国の市町村議会で話題となっている項目である。当議会でも政務活動費の在り方について度々議論されており、存廃についても問題となってきている。延岡のように視察旅費のみを予算化する方法もあるが、各種研修やセミナー受講については予算化されていないことから議員報酬からの出費となる。九州管内で開催される議員向けセミナーは決して多くはない事を考えると、当議会と同様の措置を講じるときにはあらゆる事を想定したうえで行う必要があると考える。

結びに、今回の視察を通じて県内の議会でも様々な取組がなされており議会活動を行う中で試行錯誤しながら取組んでいく必要性を改めて感じた。よりよい都城市議会の運営がなされるよう引き続き取り組んでいきたい。

# 議会運営委員会 行政視察報告書(感想文)

委員名：上坂月夫

- ◎ 調査事項：議会運営の概要・議会改革の取り組み・代表質問制・自由討議  
政策提言議員協議会・議会活動報告会・政務活動費について

## 1 視察の感想（全般）

今回の視察では、調査事項8項目に基づき延岡市議会の取り組み等について説明を受け、本市の議会運営等への反映すべき事項等を把握することができた。特に議会活性化特別委員会の設置・代表質問制・政策提言議員協議会の設置・シティミーティング等については、本市においても今後反映すべき事項である。

## 2 視察の成果及び議会への反映事項

### (1) 成果

#### ア 議会運営

各定例会開会日に全員協議会を開催して、議会日程・特異事項・議事日程等を全議員に徹底し認識の統一を図っている。

当初予算・補正予算の審査については、予算審査特別委員会で審査し決算関係議案については、決算審査特別委員会を設置して審査している。

#### イ 議会改革・議会活性化への取り組み

平成11年6月の定例議会で、市民の目線に立った開かれた議会を目指すために、議会活性化特別委員会を設置して「公開・対話・政策」を3本柱にして、議会改革に取り組んで成果を得ている。

#### ウ 代表質問制

次年度の施政方針に基づく当初予算案の審議が行われる3月議会において、会派による代表質問制(会派質問時間50分・答弁含む100分)をとっている。又、関連質問として1人10分以内の質問を認めている。

#### エ 政策提言議員協議会

市議会及び市当局が共通の認識のもとに政策を検証する機会を設けることで、議会内における政策理解を深め、市議会として市当局の政策立案・改善に向けた提言を行うことを目的として、平成20年度に政策提言協議会が設立されている。

協議会の委員構成については、議長・副議長・各会派代表者2名で構成している。(細部：別紙資料)

提言後のフォロー体制については、提言項目検証シート(実施済み・実施中・検証中・現時点で実施なし)により提言の実行状況を確認している。

オ 自由討議（議員間討議）

重要な案件や委員の意見が分かれそうな案件について実施して合意形成を図るとともに、審議された議案等に関する市民への説明責任を果たす目的もある。

カ 議会活動報告会・シティミーティング

(ア) 議会活動報告会は440の自治会が11地区に構成されており、2年間で全地区で開催できるように調整して実施している。

報告会の周知方法は広報紙の発送に合わせた案内ビラの回覧・市のホームページ・各議員の開催地区区長への直接案内・マスコミへの依頼等で広報案内している。

(イ) シティミーティングの開催は、住民の行政に対するニーズの多様化に伴い、議会の役割は政策形成機能強化や住民との協働も求められることから、平成21年度から開催している。

実施要領は常任委員会が各常任委員会の所管する事務の関係団体等を対象として、関係団体の現状や課題等の意見交換を実施している。

開催の申し出は関係団体から依頼されることが多く、テーマは定めていない。

キ 政務活動費

政務活動費の支給は行われていない。会派視察等の経費については、年間1人当たり上限150,000円を予算計上して運営している。

(2) 議会への反映事項

ア 議会改革特別委員会

公開・対話・政策を3本柱とした議会活性化の取り組み。

イ 政策提言議員協議会

本市議会の常任委員会としての政策提言の実施要領等・提言後の検証シートを活用等のフォロー体制。

ウ 代表質問制

本市議会が検討中の会派代表質問の実施要領。

エ シティミーティング

議会活動報告会と違う常任委員会が開催するシティミーティングの実施要領。

## 令和元年度議会運営委員会行政視察報告書

### 1 議会運営上の先進的な取り組みについて

- (1) 日 時 : 10月16日(水)午後
- (2) 視察箇所 : 延岡市議会
- (3) 説明者 : 延岡市議会 松田副議長 下田議会運営委員会委員長  
松田事務局次長 須藤議事係長
- (4) 参加者 : 都城市議会運営委員9名、都城市議会事務局員1名
- (5) 調査事項及び状況

#### ①議会運営の概要について

定例会開会日は通例として第1火曜日に設定し、開会二日後木曜日の10時を質問通告書の提出締切りとしている。質問は3日間を設定し、3月議会のみ2日間を代表質問に充てている。当初予算及び補正予算の審査については、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会で、決算の審査については、議長及び議選監査委員を除く全議員で構成する決算審査特別委員会で審査している。

#### ②議会改革の取り組み(特別委員会の設置)について

##### ○「議会活性化特別委員会」H11年度～H12年度

3つの柱「公開」「対話」「政策」を基準に17のテーマについて協議・検討し活性化につなげた。

##### ○「議会改革特別委員会」H19年度～H22年度

より質の高い時代に即した議会活動を目指し、政策提言の充実、議長選挙時の所信表明の導入、議会費の見直し、一般質問の充実、議会活動報告の充実などを協議し実施してきている。

##### ○「議会基本特別委員会」H23年度～H24年度

今後の議会と市民、当局との関わりを明確にした中での活動を進めていくために、特別委員会を設置し平成24年度に議会基本条例を制定した。これにより、決算審査に関する説明資料の改善、議員間討議の実施、市長への反問権の付与を行っている。

##### ○「議会のあり方検討特別委員会」H27年度～H30年度

これまでの取り組みをより効果的なものにするため、今後の総合的な議会のあり方について協議する特別委員会設置し、議会基本条例の検証を行っている。この特別委員会はH27年の改選後も継続して設置され、決算審査時期の見直しがされている。

○「議会活性化特別委員会」R元年度～

インターネット放送、議会基本条例の検証作業、議会のICT化等の議会活性化に関する事項について協議するため特別委員会を設置し、調査研究を行っている。

③議会活性化の取り組みについて

※②と重複

④代表質問制について

3月議会において政策集団である会派による代表質問を行っている。代表質問は、会派内の政策論議の活発化すること、当局との政策論議を深めること、政策形成能力の向上を目的としている。質問は、各会派の持ち時間50分で当局答弁を含め100分、10分以内の関連質問1名を可としている。

⑤政策提言議員協議会について

延岡市議会では、H17年度からH19年度にかけて年3回程度、正副議長、会派代表者、市長、助役による政策意見交換会を実施している。H20年度に市議会として当局の政策立案及び改善に向けた提言を行うため、議長を会長とする政策提言議員協議会が設立されている。H23年度に協議会の運営等が見直しされ、全議員からのテーマ案を協議会で決定すること、中期的なものもテーマに加えること、1年をかけ調査研究し十分な協議を重ねて提言することとした。

協議会は、会長（議長）、副会長（副議長）、代表者（会派代表5名）、幹事会（会派幹事長5名）で組織されており、H29年度は全体会5回、幹事会12回が開催されている。なお、協議会は、H30年12月にH27年度からH29年度の提言に関して進捗状況等の検証を行っている。

⑥自由討議（議員間討議）について

十分な審議、議論が尽くされ合意形成が図られるよう議員間討議が実施されている。本来は全ての会議を対象としているが、現在は委員会のみで実施している。議員間討議時は、委員の自由な意見を述べられるよう当局職員は退室している。

⑦議会活動報告会・シティミーティングについて

議会活動報告会を毎年1回以上開催し、市内11地区を2年間で回る

よう調整している。会場は各地区のコミュニティセンター等を借用。実施方法等は、昨年度まで実施していた本市のやり方とほぼ同じ。平成30年度は5地区115人が参加しているが年々減少傾向となっている。

また、平成21年度からシティミーティングを開始している。実施は、市民や市民団体の申し出に基づき常任委員会が対応している。開催場所は市役所会議室。開催内容は議会活動の報告に加え、関係団体との意見交換を行っている。政策への反映の仕組みは構築されていない。

#### ⑧政務活動費について

過去に政務活動費の交付について協議した事があるが、現状として交付はされていない。会派視察等の経費は一議員当たり年間15万円を上限に予算化されている。また、全国都市問題会議や全議員対象の研修会等への参加については、全議員が年1回は参加できるよう予算化されている。

#### (6) 視察の成果及び議会への反映事項

- ①単発ではなく継続する議会改革の仕組みをつくること。
- ②政策集団である会派の価値を高めるために代表質問制を導入すること。
- ③内容を深めた政策提言のために全議員による提言に対する共通認識を共有する必要があること。
- ④議会報告会、意見交換会については、市民への「広報」と市民からの「広聴」に加え、市民との政策形成の視点を取り入れる必要があること。

#### (7) 全体所感

延岡市議会の視察に多くの知見を得ることができた。特に、20年ほど前から議会改革を進めるための特別委員会を継続していることが、本市に先駆けて多くの先進的な取組が導入できた素地だろうと推察した。従って、本市議会活動へ最も反映すべきものは「議会改革を主体的に進める仕組みと組織」を構築することだろう。

今回の視察の主題は「代表質問制の導入について」であった。代表質問は会派活動の活性化と議会の政策形成能力の向上につながると思うが、個々の議会改革課題を各々に議論するのではなく、先ず議会全体の改革テーマと優先順位を設定する中で議員間の認識共有を図る必要があるのではないだろうか。「代表質問制の導入」がこの改革テーマの中にあるのは間違いないが、代表質問は多くの議員が納得しない限り導入後の効果は期待できないと考える。

## 1 視察の感想

今回の視察では、延岡市議会は議会活性化、政策提言、シティーミーティングなどに積極的に取り組んでおり、議会としての機能をよく果たしていると感じた。もちろん本市の市議会も取り組みつつあるものも多いのだが、まだ緒に就いたばかりだったり、もう少し論議を重ねていく必要があるものも多いように感じた。

特に、よさを感じたのが政策提言である。市議会は二元代表制なので首長も議員も共に市民から選挙で選ばれるのだが、現在のところ本市の市議会は、市当局の取組を監視するという機能が中心となっているように感じる。もちろん一般質問という機会もあり、当局に対していろいろな提案はできるのだが、それを受ける受けないは当局の考え次第であるため、その後の取り組みについてははっきりとは分からない。

延岡市議会は、平成17年度から首長と正副議長、会派代表者による政策意見交換会に取り組みはじめ、さらに平成20年度からは政策提言議員協議会を設立して、提言後のフォロー体制確立について明文化したり、提言内容案のとりまとめ方や提言として仕上げるまでの順序を明確にしたりしてきた。結果、現在までに20以上の提言をまとめ、その後の市当局の取り組み状況を見てみると、かなりの提言が実現されているようだ。

本市は、人口16万人をかかえる県内2番目の市として着実に発展しているように感じているが、やはり市政は首長一人の肩に掛かっているという感じがしてならない。実行力、決断力、創造力ともに優れた首長ではあるが、一人ですべて背負うというのは、やはり荷が重いのではないかと思う。また、首長に入る情報にも片寄りがある可能性もあり、市民にとってよりよい判断を下すという点でも、少し気になるところである。

## 2 視察の成果及び議会への反映等

本市議会の政策提言は、各委員会で2年間の視察等を通して得られた情報をもとに論議を重ねて協議しながら提言内容を固めていき、4つの委員会から出てきたものをさらに審議しまとめていくという方法をとっている。

延岡市議会と比較すると、本市の場合、提言をまとめるまでの間に市当局との協議が行われておらず、いきなり政策提言が市当局に届けられることになる。他市の素晴らしい取り組みを本市の実情を考慮しながらまとめ上げた政策提言ではあるが、その中には本市なりの事情が十分組み入れられているとは言えず、実現に向けては難しい部分があるかもしれない。提言するまでに、是非市当局と協議し、実現するための方法まで含めてもっと練り上げていく必要があると思う。

また、市議会が政策提言したことが、どの程度実現されつつあるかの進捗状況を把握するかも大変重要である。その方法については、本市では明確にされておらずこれからの取り組みが待たれるところである。

ともかく、市議会の政策提言は、これからもっと重要視されてもよいのではないかと思う。首長一人だけの判断で市政を動かしていくのではなく、もっと多くの英知を結集してよりよい方向に市を発展させていくことが必要である。そのためには議員各位がよりよい都城市にするにはどうすればよいかを市民とともに活動しながらともに考えていくことが必要だと考える。